

■7月5日

全日空、国内線、旅客基幹システム刷新、オープンシステムへ

全日空はこのほど、国内線の予約・発券・搭乗等で使用する旅客基幹システムを刷新、オープンシステムに移行して稼働開始したことを明らかにした。日刊航空が報じた。

同社は、これまで汎用機による予約等システムを使用していたが、様々なメーカーのOSやソフトウェア、ハードウェアを組み合わせるオープンシステムへ切り換えた。オープンシステム化によってシステム改修が容易になることから、コストをかけずにより早く、顧客が求める新しいサービスを提供できる環境が整ったという。

新システムは、日本ユニシスが提供。世界のメガキャリアで、オープンシステムによって予約—搭乗システムを構築したのは、同社が初めてとなる。

なお、新システムの愛称は、これまで通り“able”とする。

(日刊航空)7/5

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(日本ユニシスプレスリリース)7/2

http://cloud.watch.impress.co.jp/docs/release/20130702_606082.html (->

http://cloud.watch.impress.co.jp/docs/release/20130702_606082.html)

リンク、新任取締役3名を選任

北九州地区を拠点にリージョナル航空事業への参入を目指すリンクは、6月末に開催した株主総会で新たに3名の取締役を選任したと発表した。

新任取締役は、旧日本エアシステム出身で、天草エアライン取締役整備部長のほか、スターフライヤーとフジドリームエアラインズでも整備関連管理職の経験がある土佐谷昭氏(現リンク整備部長)、旧JAS出身でスカイマークの取締役経営企画室長、スターフライヤー取締役経営企画部長、フジドリームエアラインズ常務取締役経営企画部長を歴任した森内亨氏、三井物産出身でベンチャーキャピタルに務める川口哲司氏—の3氏。

(日刊航空)7/7

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(リンク プレスリリース)6/28

<http://linkairs.jp/pdf/130626.pdf> (-> <http://linkairs.jp/pdf/130626.pdf>)

ジェットスター・ジャパン(LCC)、6月、平均搭乗率68.9%

ジェットスター・ジャパンはこのほど、6月の搭乗率が68.9%だったことを明らかにした。なお、4月が72.7%、5月は74.8%だった。

一方、定時出発率は、就航当初の昨年7月は66%だったが、直近3カ月は、4月83%、5月93%、6月は91%に向上している。

(日刊航空)7/5

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

チェジュ航空(LCC)、成田—仁川線就航、日本国内4都市目

韓国の格安航空会社チェジュ航空は4日、成田—ソウル線を開設した。使用機材はボーイング737—800型機で1日2往復を運航する。この路線には、すでに韓国のイースター航空とエアアジア・ジャパンの、2つの格安航空が運航している。

同社は、韓国の財閥などが共同出資する独立系LCCで、売り上げや旅客数は韓国LCCでトップ。ソウルや済州と、中国、タイなどの都市を結ぶ国際線を運航しており、日本では、関西、中部、福岡に乗り入れている。

(時事ドットコム)7/4

http://www.jiji.com/jc/c?g=ind_30&k=2013070400092 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=ind_30&k=2013070400092)

中国国際航空、那覇—北京線、運航再開

尖閣諸島の領有権をめぐる日中関係の悪化で運休していた中国国際航空は3日、那覇—北京線の運航を再開した。使用機材は、運休前と同じボーイング737—800型機(157人席)で、水曜と土曜に週2往復する。

一方、那覇—北京線は、週2往復運航していた海南航空が昨年9月から運休。また、昨年9月に那覇—上海線を週4往復で運航する予定だった吉祥航空も就航を見合わせており、沖縄県は10日から、運航の再開や新規就航を求め、北京で海南航空など訪問しトップセールスを行う

(沖縄タイムス)7/4

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-07-04_51261 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-07-04_51261)

マンダリン航空、台北—石垣線、双方向プログラムチャーター運航開始

マンダリン航空は、台北—石垣間で一般客も搭乗できる双方向プログラムチャーター便の運航を3日から開始した。水、土曜日の週2回4便の運航を計画。チャイナエアライン沖縄支店によると、フリー枠は20—25席を用意している。石垣発着のチケットは地元の代理店と調整が済み次第、販売を開始する予定だ。八重山毎日が報じた。

南ぬ島石垣空港の台湾路線は、トランスアジア航空(復興航空)を加え週4回8便の運航体制となる。両社とも定期便化を目指しており、国際線ターミナル施設・機能の改善が急がれそうだ。

(八重山毎日)7/4

<http://www.y-mainichi.co.jp/news/22782/> (-> <http://www.y-mainichi.co.jp/news/22782/>)

仲井真弘多知事、県営航空会社設立を検討 離島交通確保

(琉球新報によると)

仲井真弘多知事は3日の県議会で、離島交通の安定確保を望む声が高まっていることを受け、県営の航空会社設立も視野に調査検討を進める考えを示した。同日、謝花喜一郎企画部長に、採算性などを含めて早急に検討を始めるよう指示した。具体的な路線などは示していないが琉球エア—コミュニティー(RAC)規模の会社を想定している。

知事は砂川利勝氏(自民)の質問に対し「RACのような航空会社を造るしかないかもしれない。採算性の問題もあるが、公共的要素を入れないといけないかなと思う。ぜひ研究したい」と答弁した。

本会議後、知事は新会社設置や国内外を含めた既存航空会社の経営権獲得などを含め、さまざまな可能性について研究したいと説明。「離島交通確保は、沖縄の克服しなければいけない課題だ」と述べた。謝花部長は「親会社に影響されない自分たちの航空便を確保したいという知事の強い思いがある。まずはどういう問題点があるか洗い出したい」と述べた

(琉球新報)7/4

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-208970-storytopic-3.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-208970-storytopic-3.html>)

アジアナ航空、米子—ソウル線、6月利用者、前年同月比16.3%減、3カ月連続50%割れ

アジアナ航空山陰支店は3日、米子—ソウル便の6月搭乗実績を発表した。利用人数は1926人で前年同月比16・3%減、搭乗率は前年同月を9ポイント下回る45・4%で3カ月連続の50%割れとなった。内訳は、韓国人旅客は同月比12%減の742人、また日本人旅客も同比18・1%減の1164人。

東京ディズニーリゾート30周年や富士山の世界遺産登録などで首都圏周辺の注目度が増した反動で、地方を訪れる韓国人客が減少。同航空の日本の地方空港と結ぶ路線は軒並み苦戦している傾向があるとのこと。

(日本海新聞)7/4

<http://www.nnn.co.jp/news/130704/20130704055.html> (-> <http://www.nnn.co.jp/news/130704/20130704055.html>)

国民生活センター、LCCへの苦情相談急増、予約サイトなどの改善を要望

(時事ドットコムによると)

国民生活センターは4日、格安航空会社(LCC)に関する苦情相談が急増しているとして注意を呼び掛けるとともに、予約サイトの改善など事業者への要望を公表した。

同センターによると、昨年度のLCCに関する相談数は579件と前年比4倍以上。事例では、予約サイトに最終確認画面がなく、確認できないまま予約完了となった消費者が、不本意な名義変更料金や手荷物代を支払わされるケースが複数あった。

(時事ドットコム)7/4

http://www.jiji.com/jc/c?g=soc_30&k=2013070400783 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=soc_30&k=2013070400783)

(国民生活センター)7/4

http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20130704_2.pdf (-> http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20130704_2.pdf)

全日空、成田—シカゴ線増便、1日2便へ

全日空は4日、9月1日から、成田—シカゴ線をダブルデイリー化すると発表した。当初は6月の増便を予定していたが、ボーイング787型機の運航停止により延期していた。使用機材はボーイング777-300ER型。増便により、アジア—北米間の接続需要も取り込み、ネットワークキャリアとしてのビジネスモデルをさらに強化する。

(トラベルビジョン)7/4

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58160> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58160>)

(ANAプレスリリース)7/4

http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/13-064.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/13-064.html)

全日空、ボーイング787投入先を拡大

全日空は4日、2013年サマーダイヤの一部変更の中で、9月から10月にかけて成田発着のミュンヘン、シアトル、シンガポールの各路線にボーイングB787型機を順次投入すると発表した。ミュンヘンは9月1日、シアトルは9月20日、シンガポールは10月1日。

また、ミュンヘンとシアトルは長距離国際線用のボーイング787型機を導入することで、全席が通路に面したフルフラットのビジネスクラスシート「ANA BUSINESS STAGGERED」が利用可能になるという。

(トラベルビジョン)7/4

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58160> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58160>)

(ANAプレスリリース)7/4

http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/13-064.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/13-064.html)

国交省、羽田—成田、都心直結型線構想、地質調査開始

国交省は、東京都心の大深度地下に都営地下鉄浅草線の短絡線を整備することによって東京駅付近から羽田空港と成田空港を結ぶ新鉄道“都心直結線”構想で、今年秋から短絡線の出入口となる押上駅周辺で地質調査を開始することを決めた。2014年度は、さらなる詳細調査やルート・新駅等の計画策定などを行い、2015年度から具体的な事業スキームの検討に入っていく。

開業年度については、JR東海によるリニア中央新幹線(品川～名古屋間)の開業が予定される2027年をターゲットとしている。

開通すると、東京駅～羽田間の所要時間を最短18分(現在は乗り換えが必要で27分～36分)に、東京駅～成田間を36分(現在は53分～55分)に短縮できる。

(日刊航空)7/4

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>

タイ国際航空、仙台、広島に新規就航を予定、今冬スケジュールから

仙台市は4日、タイ国際航空が、仙台ーバンコク線を今冬就航することを明らかにした。便数などは不明。

海外メディアによると、仙台のほかに広島への就航も計画しており、当初週3便で就航し、来年の一月には週5便での運航を計画しているという。

同社は日本国内6空港(成田・羽田・大阪・名古屋・福岡)に定期便を開設しており、今後日本や中国路線の拡大を図りたい考えだという。

また、同社のソラチャク社長は3日、発注していた新しい航空機が今年下半期に届くことを明らかにしており、座席数は9%拡大する。

(読売新聞)7/5

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/miyagi/news/20130704-OYT8T01431.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/miyagi/news/20130704-OYT8T01431.htm>)

(ttrweekly)7/5

<http://www.ttrweekly.com/site/2013/07/thai-to-add-japan-flights/> (-> <http://www.ttrweekly.com/site/2013/07/thai-to-add-japan-flights/>)

(バンコク週報)7/5

http://www.bangkokshuho.com/article_detail.php?id=2307 (-> http://www.bangkokshuho.com/article_detail.php?id=2307)

タイガーエア(LCC)、シンガポールーマレーシア地方路線拡大

シンガポールのタイガーエア(LCC)は、シンガポールとマレーシアの地方都市を結ぶ路線の拡大を計画している。イポー、コタキナバル、クアラトレンガヌなどへ、シンガポールからの観光需要が高まっているという。

一方、運航中のペナン便も、週14便から21便に増便を計画している。

なお、7月3日、タイガー・エアウェイズは「タイガーエア(Tigerair)」にブランド名の変更を発表している。

(マレーシアナビ)7/5

<http://www.malaysia-navi.jp/news/?mode=d&i=2126> (-> <http://www.malaysia-navi.jp/news/?mode=d&i=2126>)

(タイガーエアー プレスリリース)7/3

http://www.tigerairways.com/news/TH_20130702_Say_Hello_to_the_new_Tigerair.pdf (-> http://www.tigerairways.com/news/TH_20130702_Say_Hello_to_the_new_Tigerair.pdf)